



♡まんまるはーと♡

第2号

認定こども園和光幼稚園
平成29年5月31日
主幹 宮園 貴子



【達成感が自信を育む】

～挑戦する姿を見守る～

自分で靴を履く、制服を着脱する、おもちゃを片付けるなど、大人は出来て当たり前のこと、子どもにとっては全て挑戦から始まります。子どもたちが「自分でやってみたい！」という「やる気」を育てるためには、まず色々な経験ができるようにすることが必要といわれています。

何でも子どもが興味を示したら、それが危険なことではない限り、できるだけ子どもにやらせてみることも成長につながっていきます。子どもにとっては、その達成感や、大人の役に立ったという満足感が自信になり、ひとつのことを根気よく続ける習慣も身につきます。



子どもの頑張りを、心から「よく頑張ったね」と褒めてあげることで、「自分もやればできる」と思える子どもに育っていき言われています。

子どもにとって親や教師は、自分の気持ちに伝えてくれる人、いざという時は助けてくれる人という安心感が生まれ、その安心感を基盤に、自分から自信を持って、外の世界に歩いていけるようになっていきます。

幼稚園でも、遊びや活動の中で子どもたちの「やってみたい！」という場面に出会います。子どもたちの満足感や達成感を味わい、そのことで心や体の成長につながっていくような配慮・援助にこれからも努めながら、子どもたちと共に過ごしていきたいと思えます。

～ひとり遊びから仲間へ～

天気の良い日は、園庭で元気に遊んでいる子どもたちです。砂場や遊具など遊び方も様々です。

新年度当初は、新しい環境や新しい友達に戸惑いもあり、ひとり遊びが中心の子どももいました。また、いつも決まった友達とばかり遊ぶ子どももいました。

遊びの仲間に入れてほしくても、上手く言えずにいたり、おもちゃの取り合いになって、友達を泣かせて譲ってもらっても後味がすっきりしなかったり。。

教師が間に入り、代弁したり、伝え方を一緒に考えたりし、折り合いをつけていく中で、少しずつ相手には自分と違う気持ちがあることに気づき、友達の存在を喜ぶようになってきました。

ある日、年少組のA君に砂場から「せんせい。こっちに来て！」と呼ばれました。A君の傍にいくと手には砂場の土をのせたスコップを持っていました。そして、それを見せながら、私にこう言いました。

「せんせい見て！これねB君にももらったの♪」と満面の笑顔で話をしてくれました。そのあと、二人は一緒にバケツに砂を入れたり、砂型で遊んだりしていました。このA君とB君は新入園児で同じクラスです。初めて幼稚園で出会い、友達の存在を感じ始めた頃に、共通の遊びから始まった友達とのつながりを喜んだ瞬間だったように感じました。

